

第6回とちぎ夢大地応援団活動報告(令和4年1月29日実施)

茂木町 町田本郷地区「竹林の管理作業」

茂木町町田本郷地区で、「とちぎ夢大地応援団」活動を行いました。都市住民のボランティアや地域の住民の方々、19人が参加し、竹林の伐採作業などに汗を流しました。

応援団は農業農村の豊かな地域資源を保全するため、都市住民が協働する活動を県内各地の農村地域で行なってきました。

同地区では、約1畝の竹林を整備し、竹炭や竹プランター作り、交流の場などとして活用する計画が進んでいます。地元団体の「たけのわ町田本郷地区」や、NPO法人「トチギ環境未来基地」が整備作業を続けています。

同日、参加ボランティアは、地元の人たちと一緒に、近くの山林に分け入り、指導を受けながら午前中いっぱい、竹の間伐や伐採した竹の片付けに取り組みました。高さが10畝ほどに伸びた竹の伐採作業はかなりの重労働です。最下部に三角形の切り込みを入れ、反対側からのこぎりを入れて切る方法で伐採しました。多くの方は竹の伐採は初めての経験で、うまく切り倒せたときには大きな歓声が沸きました。

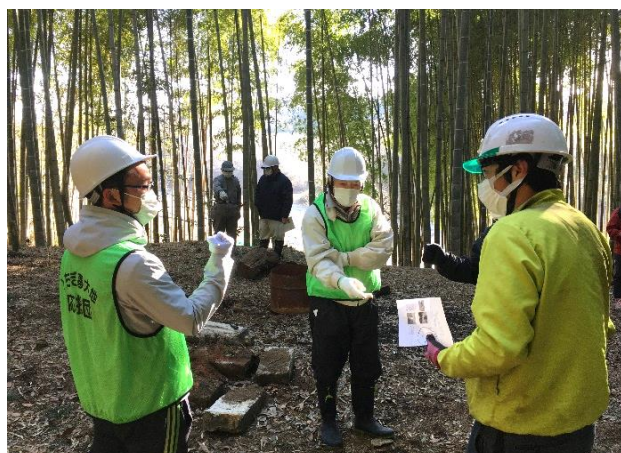
同地区の小堀修三区長は、「竹林の所有者も高齢で自分で整備するのは難しい状況。多くの人たちに支援してもらい大変助かる」と感謝していました。



▲同地区の野原代表は「こうした活動を契機に今後も交流を続けたい」と語りました。



「たけのわ町田本郷地区」の野原典彦代表は「役に立たなかった竹林を整備することで、新たな活用の道を開いていきたい」と挨拶をしました。参加した応援団員たちも早朝からやる気満々で、淡々とスケジュールをこなしていきました。



作業現場の指示は、「トチギ環境未来基地」代表の塚本さんが行い、的確に作業を進めていきます。グループの班分け、作業場の案内、竹林の伐採など、多くの団員には初めての作業でしたが、終始スムーズに竹を伐採していきました。



このように、代表の野原さんが自ら竹の伐採方法を実演しました。竹はしなっている向きから切り込みを入れると、危険がなく安全に倒れると紹介し、竹が実際に大きな音を立てて倒れる際には「おおお〜」と歓声が湧きました。



切り倒された竹の一部は、今後、プランターや植木鉢、お米を炊く飯ごう等に加工され、体験教室や農業体験時のアイテムとして利用されるそうです。森の循環を学ぶ教材として、多くの人たちに活用されていくのではないのでしょうか。